

第3B(小)分科会 教育環境整備に関する課題

提案主題 地域資源を効果的に活用し、地域とともにある学校づくりをめざして
サブテーマ ～地域資源と学校をつなぐ教頭の役割～
討議の柱 地域資源と学校をつなぐ教頭の役割はどうあればよいか。

提言者 杵築市立護江小学校 鈴木理恵

1 質 疑

- (1) Q 今回作成した地域との交流をまとめた一覧表は、どの程度の内容になっているのか。
A 苗字やおおまかな内容のみ記載した。細かい個人情報については別冊を作成した。
- (2) Q 地域人材の活用は、生活や総合だけでなく算数や家庭科でも行われているのか。
A 現段階では行っていない。新しい教育課程を編成していく際に、取り入れていきたい。
- (3) Q 学校教育目標は新しいものか。主任の役割はどうなっているのか。
A 学校教育目標は今年度のものである。ミドルリーダーの育成で、今後は主任に上手に振り分けていきたい。そこが、今後の課題である。
- (4) Q 地域に学校を知ってもらうための情報発信は、どのようにしているのか。
A 写真を中心にした学校だよりを月2回くらい発行して、地域に配っている。

2 協 議

- (1) 地域と連携した活動の場合、最後まで子どもが活動しているかどうか問題。おいしい所取りになっているケースが多いのではないかと。草取りからすべてさせるべきではないか？この活動で子どもに何を身につけさせるのかを明確にして取り組むべきである。
- (2) データ化して見える化しているのは素晴らしい。新しい物になかなか発展して行かないが、10年3地域で来た職員に地域と連携した活動を理解してもらうよい取組である。担当に引き継ぎ、よりよいものにして行くことができる。
- (3) スクールアシスタントの制度を確立し、校内は教務、校外は保護者に任せるとよい。地域によっては、他団体内の横の繋がりができていないことが課題となっているケースもある。組織構築とスムーズな引き継ぎが大切である。

3 指導助言

- (1) 新学習指導要領では、社会に開かれた教育課程が求められている。学校で育むべき資質・能力を社会と共有することが重視される。
- (2) 地域資源と学校をつなぐ教頭の役割を考えることは、非常にタイムリーな実践である。教頭が校内のコーディネーターとして、地域と先生方を結びつける橋渡しの役割を果たしている点が素晴らしい。また、地域環境をデータ化し教職員で情報を共有したことで、教育活動に円滑に生かされるだけでなく、教職員の地域に対する興味や関心を高めるのに有効であった。情報のデータ化によって人事異動があっても情報が残っていくので、取組が継続できる。
- (3) 今後、コミュニティ・スクールとしては、子どもにつけたい力とその力を育成するための教育課程を学校・地域・保護者で共有することが重要である。

【今後、教頭に求められる役割】

- 地域のひと・もの・ことを有効に活用したよりよい教育課程の編成を目指す。
- 実践・改善にあたって、カリキュラムマネジメントやアクティブラーニングの視点から担当教諭に指導・助言を行う。
- 今後導入されるプログラミング教育にも地域人材を生かす。